

## 岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和6年度 第1回都市研究会現場見学会 (CPD 番号 6-10)
主催	(公) 日本技術士会東北本部岩手県支部都市研究会
日時	令和6年11月2日(土) 15:00 ~ 16:30
場所	莫産九(ござく)・森九商店(岩手県盛岡市紺屋町1-31)
参加人数等	古山、海野、平井、高島、下川、出口、本間、佐藤(会長) 会員6名、非会員2名
活動内容	
<p>令和6年度第1回都市研究会現場見学会は、盛岡市の景観重要建造物である莫産九・森九商店の現場見学会を行ったもの。</p> <p><b>1 莫産九・森九商店の概要について</b></p> <p>(1) <b>位置と構造</b>:紺屋町の東北電力社屋と三島医院の間に位置。広い敷地に、店舗、住居、土蔵など数棟が建設されている。紺屋町側に店舗と住居、中津川側に蔵と塀が配置。</p> <p>(2) <b>紺屋町道路側の景観</b>:道路が「くの字形」に屈折しており、建物がそれに沿って建築。見る角度によって建物がさらに長く見える構造。屋根は低い軒先からゆるい勾配で奥行が深く、瓦の色が景観に調和。江戸から明治時代の商家らしい横長の構造を持ち、風情を伝える。</p> <p>(3) <b>中津川側の景観</b>:中津川の清流越しに、石垣、瓦屋根、白壁の蔵、土塀が調和した美しい景観。左岸側からは、現代建築と歴史的建築が対比される見事なコントラストを楽しめる。</p> <p>(4) <b>建築的特徴</b>:一部は中2階、高さを抑えた2階建構造。黒い瓦葺きの庇が建物の横長感を強調。現代風の看板が一切なく、明治時代の色調で落ち着いた雰囲気。</p> <p>(5) <b>歴史的・文化的価値</b>:周囲の歴史的建造物(岩手銀行本店、紺屋町番屋)や中津川との調和が盛岡らしい景観を形成。市中心部における貴重な歴史的価値を持つ。</p> <p><b>2 現場見学会の概要</b></p> <p>七代目店主である森氏から、莫産九・森九商店の歴史と現状について、『きららな街』盛岡を作る会の小田中氏から莫産九と地域との関わりに説明頂き、そして、令和6年8月に発生した水害について意見交換を行った。</p> <p>(1) <b>莫産九・森九商店の歴史と変遷について</b> 森氏から、莫産九・森九商店は江戸時代から続く店であり、当初は日用品を扱い行商などで商品を集めて、その後様々な商品を取り扱うようになったことが語られ、特に、灯心や井草などを中心に扱っていたことが強調された。</p> <p>(2) <b>建物の歴史と構造について</b> 莫産九は、元々、別の場所にあった建物を移築したものであり、明治時代初期に建てられたと推測されていることと、明治中頃までに行われた改修の歴史や建物の構造について詳しく語って頂いた。</p> <p>(3) <b>建物の現在の使用状況について</b> 現在、倉庫として使用しているほか、地域の集会やギャラリーとしても活用している一方で、建物の維持管理の課題についても言及があった。</p> <p>(4) <b>地域活性化の取り組みについて</b> 小田中氏からは、莫産九の活用に係る取り組みとして、お茶会や落語会、写真展など、様々なイベントを開催している旨の説明があった。また、これらの取り組みを通して、若い世代との交流や、地域の人々との連携についても言及があった。</p> <p>(5) <b>水害問題と対策について</b> 令和6年8月に3回生じた水害問題について意見交換した。排水構造の課題や改善策について話し合った。特に、地形的な問題や排水路の構造について意見交換後、現地の状況について確認した。</p> <p style="text-align: right;">&lt; 以上 &gt;</p>	

写真1：現場見学会における意見交換の様子



写真2：莫産九・森九商店の内部の様子



写真3：莫産九・森九商店の内部の様子

